

殺虫剤分類	4F
殺菌剤分類	P2

GPオリゼ リディア 箱粒剤

フルピリミン・プロベナゾール粒剤

緑化期から使える箱処理剤 いもち病+害虫の防除に!

新規殺虫成分「フルピリミン」が既存剤に抵抗性を示す害虫にも高い効果を発揮し、
安心と信頼の殺菌成分「プロベナゾール」がいもち病を同時に防除します。



ミツバチのほか、ウツキコ
モリグモ、ヤゴ等への影響
はほとんどありません。



イネカラバエ
イネヒメハモグリバエ
にも効く!



GPオリゼリディア® 箱粒剤

農林水産省登録 第24506号

- 成分：フルピリミン …… 2.0%
プロベナゾール …… 20.0%
鉱物質微粉等 …… 78.0%
- 性状：淡褐色～褐色細粒
- 人畜毒性：普通物
(毒劇物に該当しないものを指している通称)

特長

1. 新規殺虫成分 フルピリミン含有で初期害虫に高い効果

既存の殺虫剤とは作用が異なり、既存剤に抵抗性の害虫にも効果を発揮します。
フルピリミンはミツバチの他、多くの有用昆虫や天敵類に対して影響が小さいです。

2. いもち病防除に定評のあるプロベナゾール含有

プロベナゾールは抵抗性誘導型殺菌剤で、イネいもち病に安定した効果を示します。

3. 緑化期～移植当日まで使用できます！

田植えの忙しい時期をさせて、緑化期から移植当日までの御都合の良い時に散布できます。

■ 適用病害虫と使用方法

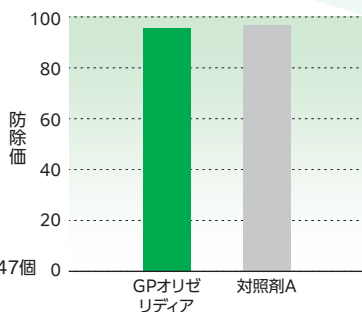
作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネドロオウムシ イネミスゾウムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	緑化期～ 移植当日	1回	育苗箱の苗の 上から均一に 散布する。	3回以内 (移植時までの 処理は1回以内、 本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの 処理は1回以内)
	もみ枯細菌病 内穎褐変病 白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) ニカメイチュウ イナゴ類 イネカラバエ イネヒメハモグリバエ フタオビコヤガ		移植3日前～ 移植当日				
稲	いもち病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネドロオウムシ イネミスゾウムシ ニカメイチュウ イナゴ類 イネカラバエ イネヒメハモグリバエ フタオビコヤガ	高密度に は種する場合は 1kg/10a (育苗箱(30×60× 3cm、使用土壌 約5ℓ)1箱当り 50～100g)	移植時		側条施用	3回以内(直播では種時又は 移植時までの処理は1回以内、 本田では2回以内)	
湛水直播水稻	いもち病	1kg/10a	は種時		は種同時作業機を 用いて土中施用する。	3回以内(は種時までの処理は 1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (は種時までの処理は1回以内)

■ 試験成績

秋田県立大学 2019年

● いもち病

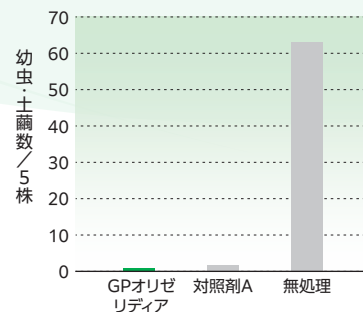
【発生状況】葉いもち・多発生(接種)
【品 種】あきたこまち
【播 種 日】4月24日
【移 植 日】5月23日
【処 理 日】4月30日(緑化期)
【調査月日】7月21日(移植59日後)
【調査方法】
各区50株3反復の株あたりの
病斑数を調査した。
無処理区の株当たり病斑数 24.47個



秋田県農業試験場 2019年

● イネミスゾウムシ

【発生状況】多発生(放虫+自然発生)
【品 種】あきたこまち
【播 種 日】4月10日
【移 植 日】5月10日
【処 理 日】4月18日(緑化期)
A剤は5月10日(移植当日)
【調査月日】7月9日(移植60日後)
【調査方法】
各区5株(2反復)を掘り取り、
根部に寄生している幼虫数・
土菌数を調査した。



GPオリゼリディア箱粒剤は各病害虫に対し、高い効果が認められた。

- 使用前にラベルをよく読んで下さい。
- ラベルの記載以外には使用しないで下さい。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。
- 使用後の空袋は圃場や水路などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理して下さい。
- 防除日誌をつけましょう。

お問い合わせ／ご注文は